

乳幼児期の教育は、環境を通して行う教育（保育）が基本となります。子どもが身近な環境で出会う全てが教材です。子どもが自ら興味・関心をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、必要な体験を積み重ねていくことが重要です。

保育者は、育てたい姿に向かうため、子どもが必要な体験を積み重ねていくことができるように、発達の道筋を見通して、教育的に価値のある環境を構成していくことが大切です。

- ◎ 子どもが環境との関わりを深め、子どもの学びを確保できるように、子どもの遊びを大切に、やってみたいと思えるようにするとともに、試行錯誤を認め、時間を掛けて取り組めるように援助していきましょう。

子どもが乳幼児期に学ぶべきことを学ぶことができるように、長い目で援助していきましょう！

- ◎ 子どもが自ら興味関心をもって、遊具や用具、素材に触れて様々な関わりができるように、それら一つ一つの意味や価値を考えて物的な環境の構成をしましょう。

環境に関わりたい意欲をもつことが大事です！

- ◎ 子どもが物的環境への興味・関心をもてるように、保育者は、子どもと同じ目線に立つてものを見つめたり、憧れを形成するモデルとなったりするなど、保育者の役割として、物的環境への関わりを示していきましょう。

保育者も環境の一部です。
子どもの視線は、保育者の姿に注がれています！

① 3つの視点【乳児期】（0歳）

乳児期は、食事や睡眠、排泄に関わるケアを行うだけでなく、信頼できる周りの人たちとの関わりの中で、体や心を育てていくことが重要です。保育者は、乳児期の発達の特性を踏まえ、5つの領域の育ちにつながるように、次の3つの視点を踏まえて保育をすることが大切です。

ア「健やかに伸び伸びと育つ」 → 領域「健康」へのつながり

- ◎ まず第一に、安全、保護、養護の保育を行います。0歳児でも生まれた時から、生きるための学びを体得しています。その生きる力を最大限発揮できる環境を整えていきましょう。

イ「身近な人と気持ちが通じ合う」 → 領域「人間関係」「言葉」へのつながり

- ◎ 乳児が何を求め、何がしたいか、丁寧に応答的に関わり読み取ることが大切です。食事、睡眠、遊びなど心地よく生活する中で、自分を表出します。保育者は温かいまなざしを送り、声を掛けながら、自立に向けて手を差し伸べましょう。

ウ「身近なものとの関わり感性が育つ」 → 領域「環境」「表現」へのつながり

- ◎ 乳児は、身の回りのあるものすべてに興味を抱きます。豊かな素材や環境に関わることで、五感を十分に働かせ、感じたことを体全身を使って表現します。安全で、衛生的な環境はもちろん、五感を働かせて遊べるような遊具や素材を環境に取り入れましょう。